

## Q 補聴器購入に助成を

いしづか せつこ  
石塚 節子 議員



## A 助成の予定はないが、聴力低下への対策が必要



**問** 近年、難聴が認知症の危険因子であることが指摘され、補聴器で難聴を補うことで、日常生活を活性化し、認知症を予防することが推奨されている。加齢性難聴による聴力の衰えにより、日常生活のコミュニケーションが困難になるなど、生活の質の低下につながり、交通事故、転倒、鬱、認知症などが増える。これらの予防には、言語生活を豊かにする言語刺激が重要である。補聴器の使用によって、社会参加がひろがり、高齢になっても、生活の質を落とさず心身ともに健やかに過ごすことができ、認知症の予防、健康寿命の延伸、ひいては医療費の抑制につながると思われる。フレイル予防につながる補聴器購入への

助成については、市の考えは。  
**答** 現在、補聴器購入に助成の予定はないが、聴力低下は、認知症の要因になると認識している。フレイル予防の観点からも対策が必要である。第6次鶴ヶ島市総合計画の重点戦略として、いつまでも健康でいられるまちづくりを掲げ、地域と連携した健康づくりや介護、フレイル予防、外出したくなる環境の整備や健康づくりの担い手の育成等、多分野にわたる取組を連携させながら一体的に推進していく。



市役所朝市

## Q コロナ禍における街の魅力の発信

まつお たかひこ  
松尾 孝彦 議員



## A 地域資源を活用し、住んでもらえるようにPRする

**問** 外出自粛による高齢者への影響について。

**答** 人や地域とのつながりが減り、動かない生活が続くことにより高齢者の心身機能の低下が心配される。このため市では、

独り暮らしの高齢者の自宅を生活支援員が訪問し、必要な支援につなげていくための取組を行

っている。今後感染予防に留意しながら、高齢者の健康の保持増進に努めた取組を進める。

**問** 魅力の発信と市制施行30周年に向けての取組について。

**答** コロナ禍においても変わらない本市の強みを市内外へ発信し続けることが重要である。

市内に向けては、まちへの誇

りと愛着を深め、これからも住み続けたいまちとして認識していただく機会にしたい。特に子どもたちや若い世代に向けた、30周年記念事業を検討している。市外に向けては、これまでも脚折雨乞やふるさと納税、つるゴン、ふるさと応援大使「鶴」などを生かし、情報発信に努めてきた。引き続き地域資源を活用し、様々な機会を捉えながら本市を知り、来てもらい、住んでもらえるようPRを継続する。

◎**その他の質問** 災害時のトイレ対策について